

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900908		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス日吉町		
所在地	福岡県田川市大字糶2264番地1		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果確定日	令和4年2月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和4年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然環境の中、穏やかに時間が経過していく佇まいである。現在コロナ禍の為、活動の場に限りはあるがその中でも創意工夫し、軽運動や体操、創作活動、季節行事を通して、大きな状態悪化なく経過している。職員は暮らしの継続の観点から利用者の方々が家の一員として「いきいき」と澆潤に生活が送れるよう、「施設運営理念」「スローガン」を共有し、日々実践してきた。利用者及び家族から「長生きしてよかった」と安心して信頼される事業所を継続できるよう集団的な活動に捉われず各個人のライフスタイルを尊重した環境づくりに努めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念とともにケア目標、挨拶、朝礼、呼称を朝の始まりにそれぞれ唱和することで、より一層の意識づけに務め、仕事に向き合う目標を掲げ、「うたをたくさんうたう」「大きな声で話す」「歩けるようになりたい」などの入居者の書初めは恒例となり、入居者に寄り添ったケアでその人らしい暮らしを支援している。病院で抑制や拒薬があった入居者の意向でお願いした洗濯物たみは職員たちが驚くほど丁寧で、入居2週間ですっかりホームの生活に馴染まれている。夜のコール使用に馴染めない入居者が夜転ばないようにトイレに行くのにどうしたら良いかを一緒に考え、コールの使用を納得してもらったり、鏡に映る自分を弟と思ひ話しかけるのを職員たちは見守っている。コロナ禍の中、自治会加入を継続し、地元高校の介護実習生を受け入れが再開し、家族との面会時に居間の広い窓越しで月毎の貼り絵や行事毎の写真をお披露目している。入居者だけでなく職員も生き生きできる職場環境を整備し、理念の具現化が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **いきいきハウス日吉町**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日理念の唱和を行い共有を図っている。事業所のスローガンは、グループホームに必要なチームケアを踏まえた内容としており、一日の業務の中で実践できるよう取り組んでいる。	理念とともにケア目標、挨拶、朝礼、呼称を朝の始まりにそれぞれ唱和することで、より一層の意識づけに務めている。仕事に向き合う目標を掲げ、入居者に寄り添ったケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会合や高齢者SOSネットワーク等と協力して事業所の活動に理解を得るよう広報を行っている。行事の参加はコロナ禍である為、控えているが、回覧や自治会長との連絡を取り交流を継続している。	自治会加入を継続し回覧板が届き、地域代表や近所の方と交流している。中断していた地元高校の介護実習生を今年度は二日間にわたって、三名受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民向けの予防教室やサロン活動は現在中止を余儀なくされているため、再開の目途が立てば受託できれば実施したい。認知症の方の相談窓口としては住民から相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議の実施は中止。委員からの意見の集約と事業所内の議題を併せて、行政及び関係者へ報告を行っている。	職員のみで定期的に開催し、状況報告や意見等の会議内容を委員に送付し、意見の集約に努めている。地域包括支援センターや家族からは、特段の意見はない。	送付した運営推進会議内容や委員の意見の集約を、運営推進会議録として玄関などで公表し、さらなる意見の表出に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センター、福祉事務所との連携により、相互の協力が得られている。	地域包括支援センターからオンライン研修などの連絡はあるが、系列施設のある自治体で開催された研修会に参加している。保健課とは健康相談などで、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人の尊厳を守り、身体拘束ではなく常に代替的な対応が行えるよう、常に検討している。またスピーチロック、ドラッグロックといった内容にも配慮し、身体拘束をしないケアに努めている。	定期的に身体拘束に関する研修や適正化委員会を開催している。車椅子につけた鈴で転倒を予防したり、睡眠導入剤は最低限量の使用を医師と検討している。言葉による拘束も理解して、時折大声を出す入居者へも静かに見守りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的虐待が日頃行なわれているか、現在行なっている対応が基本的な人権を侵害していないかを常に念頭に置き、ミーティングや研修を活用して振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用している対象者はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学習する場を持ち、利用者家族やその関係者に対し、説明が出来るよう、パンフレットや資料を準備している。	成年後見制度や日常生活自立支援事業のパンフレットを整備し、年間研修計画に権利擁護を組み入れ、制度や事業の違いを研修している。現在制度の活用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書を提示し、補足を加えながら、分かり易い説明を心掛けている。説明後に必ず納得、了承を得ており、変更の事項が生じた際には速やかに変更し、再度説明を行なう機会を設けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	身体・生活状況等御家族に説明をする際、意見・要望を伺い、運営に活かすことを実践している。また、面会時や遠方の御家族様には電話でその都度、状況報告を行い、要望や意見を受付できる体制を整えている。	家族が毎月の支払に来訪された際に、日頃の状況を報告している。今回の面会制限も○日からガラス越しでとお願いし、家族からは迷惑をかけてませんかなどの気遣いや受診支援のお礼があった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや業務報告の際に、職員各位の意見を集約し、運営に活かしている。また、その都度、意見を聞く機会を設けたり、実践に向けての助言を行ないながら、反映させている。	月1回のミーティングはあるが、何か問題あればその都度話し合い、ヒヤリハットは対応策を即検討している。カスタマー付きの椅子が傾きやすいと、段ボールを挟み込んだり、食事がとれない方の食事形態を見直している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、より良い労働環境の形成が出来る様、管理者や職員から意見を聞き、対話を大切にしている。勤務条件等、話し合いの機会を持つことにより、職員が向上心をもって働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集や採用に関しては国籍・年齢・性別等の制限はしておらず仕事に対してやる気や意欲がある方であれば無資格・未経験の方でも採用を積極的に行っている。日々、励んでいただける職員を応援し、働きがいがある労働環境の形成に努めている。	20歳代から60歳代の男女の職員が、ハローワークや口コミで入職している。系列事業所間の異動もあるが、4週8休を遵守し、3月復職予定の育児休暇中の職員もあり、個々の状況に応じた働きやすい職場となっている。介護が好きで入居者に寄り添う言葉が自然に出る入職2年目の職員は来月から主任に就任予定で、能力が発揮できる環境を整備している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修等を利用して、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。また、業務の中でも侵害されていないか確認を行っていき、コンプライアンスルールを遵守出来る様、日々注意を払っている。	年間研修計画に人権研修を組み込み、日々唱和している「優しく思いやりのある、真心のこもったサービスに励む」との理念の実践を、人権につながる教育と管理者は位置付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修及び外部研修にも参加出来るよう、配慮を行っている。認知症介護実践者及びリーダー研修等への受講推薦も積極的に行っており、キャリアアップに繋げている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	関係施設の情報交流はもちろん、他事業所との交流が図れている。現在交流会は減少傾向にあるが、相互に文書や電話で連絡を取り合う等、助言を受ける・するといった関係が築けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や生きがいに繋がること等、多くの情報収集をしていき、馴染みの関係づくりに努めている。本人が抱える不安やニーズに対して傾聴しながら、より良い信頼関係が構築できるよう、取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気兼ねなく相談や要望が表出できる様、日頃のコミュニケーションを大切にしている。 また、御家族には事業所側の取り組みを理解して戴けるよう、常に情報を発信し、信頼関係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークや事前訪問等を通し、本人及び家族のニーズに適したサービスが提供できるよう、対応に努めている。また、ニーズが異なる場合は行政や医療機関への協力を仰ぎ、ニーズを考慮した対応も行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中、職員と利用者といった関係だけに捉われず、御本人の能力やメンタル状態に応じて、共に生活していく者として関わり方を考え、安心できる環境を提供できるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り家族と一緒に大切な時間が過ごせるような取り組みや時に協力を依頼するような、環境が築けている。関係を絶った関係にならないように最大限の配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	加齢や重度化に伴い、知人や友人等との関係の継続が難しい場合もあるが知人や旧友との連絡や訪問も途切れることがないよう支援している。	家族が了解された知人の面会もあるが、現在は家族のみで居間のガラス戸越しの面会となっている。馴染みの理美容の利用を控え、現在は器用な職員によるカットを利用される方がほとんどで、家族も納得されている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のコミュニケーションを職員が取り持つようし、交流の場の提供や活動の場を孤立しないよう、努めている。日頃の状態を見守る中でトラブルを未然に防ぎ円滑な人間関係が構築出来るよう、支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方及びその家族、長期入院が必要になった方に対して、いつでも相談に応じられる旨を伝えている。状況に応じて電話連絡や近況等を手紙等で関係を保持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の表出が難しくなっている方もおられるが、個々の生活歴や人格を尊重した対応に心掛けている。潜在している意向を職員と一緒に探しながら、極力、本人本位に検討が出来るよう、努めている。	入居者の「うたをたくさんうたう」「大きな声で話す」「歩けるようになりたい」など書初めは恒例となっている。夜のコール使用に馴染めない入居者が、夜転ばないようにトイレに行くのにどうしたら良いかを一緒に考え、コールの使用を納得してもらっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで歩んできた道のりを本人及び家族から情報収集し、困難な場合は日常のケアの中で生活歴を掘り起こせるよう、努めている。本人らしい暮らし方に近づけるよう、心掛けるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活リズムの中でどんな些細なことでも変化を見逃さず、自己能力や心身状況について把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向や思いを汲み取り、各関係のサービス従事者も含め意見とニーズを照らし合わせながら会議にて共有し、計画に反映できるよう、努めている。	病院で抑制や拒薬があった入居者の意向でお願いした洗濯物たたみは職員たちが驚くほど丁寧で、入居2週間ですっかりホームの生活に馴染まれ、その人らしい生活の支援に全職員で取り組んでいる。	意向や思いを組み込んだ計画の援助内容を具体的にすることで、より現状に即した介護計画の展開を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	リアルタイムで些細な情報も見逃さず、ケース記録及び申し送りノートに記載を行っている。利用中の様子や状態の変化が分かるよう、職員間での共有や今後の対応、介護計画の見直しに活かされている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リロケーションダメージも含め、御本人にとって最適な方法を検討し、常に柔軟な方法や対応に心掛けている。コロナ禍であるが可能な限り御家族の協力を得て、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催事や季節に応じた享樂的イベントを企画・実施している。人や馴染みの関係が絶えないよう、地域の方や協力して戴ける資源を活用し対応を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を伺いながら、身体の状態に合わせてかかりつけ医との連携や受診支援を柔軟に行っている。緊急時にも柔軟かつ円滑に対応が出来る体制を構築している。	以前のかかりつけ医への受診を支援し、本人や家族の思いを大切にしている。家族の高齢化などで、全て職員が同行し、受診の報告、薬の変更なども家族に報告している。2週間に1度、訪問歯科受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携看護職員との双方で利用者の健康管理や身体機能の変化に応じて、協働してケアにあたっている。24時間体制で相談や緊急時の対応指示の連絡が出来る体制を整備している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への入院が必要になった場合は、主治医、病棟看護師、MSWと必要な情報交換を行っており、治療方針や経過、事業所側での支援方法等を本人及び家族の意向を踏まえながら早期退院に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居するにあたり、重度化及び看取りが生じた場合の指針を提示し、説明を行っている。「終の棲家」として各関係者とチームでケアにあたるよう取り組んでいる。	看取り指針を整備し、入居時はホームで看取りとの意思を確認しているが、いざ看取りとなると病院でとなっている。看取り経験はないが、受け入れの態勢は整えていると管理者は話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修などを通じて救命の基礎知識を習得している。日常のケアから観察のポイントを押さえ、急変や事故発生時に対する迅速な対応方法の周知徹底を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜問わず火災を想定した訓練(消火、通報、避難訓練)を年2回実施している。実施の際には、近隣住民や関係施設の職員の協力を得ている。地震・水害に対してもマニュアル等活用し防災意識の高揚に取り組んでいる。	近隣の系列事業所と合同で、4月と11月に夜間想定訓練も行っているが、今年度は消防署の参加はなかった。近所への挨拶や地元消防団との関りも継続し、法人本部に備蓄倉庫を整備し食料などを備蓄し、持ち出し書面も整備している。	実施されている災害対策を、令和3年までに策定が義務づけられた自然災害や新型コロナウイルス感染症発生時の事業継続計画に盛り込まれることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみがある中でも人生の先輩であることを自覚し、あらゆる場面のプライバシーの侵害がないか確認を行いながら配慮にあたっている。	書初めに「うたをたくさんうたう」と書いた101歳の入居者が歌い始めた炭坑節に隣の入居者が声を合わせるのを応援したり、鏡に映る自分を弟と思い込み、いつも鏡の前のソファに座り話しかけるのを職員たちは見守っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で傾聴し、希望の表出が困難な方でもノンバーバルサインを見逃さないように、努めている。本人のストレングスを把握しながら自己決定の下、思いや希望が叶うよう、働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる生活習慣を守りつつ、利用者個々人のペースを尊重し支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう、一緒に着る服を選んだり、希望する洋服を準備している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせて、食事の後片付け、テーブル拭き等、職員と一緒に取り組んでいる。視覚で楽しむことも忘れないよう、季節感を取り入れたり、演出、嗜好を凝らしたメニューの提供に心掛けている。	2日がかりのパン作りを楽しんでいる。練り上げたパン生地が翌日、焼き上がるいい匂いがホーム中に広がっている。誕生日は希望の焼き肉や鍋を楽しみ、ホットケーキより食パンでのケーキが美味しく好評で、工夫を凝らしながら手作りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量、体重の増減や食事形態の変更等の確認を日々観察し、対応にあたっている。栄養バランスの摂れた食事メニューを提供し、状態に応じた支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施。義歯の洗浄も細目に行ない、可能な限り自己にてブラッシングして戴いている。状況に応じて訪問歯科医の管理指導を受けており、感染症や肺炎予防にも繋がっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ、基本的にオムツを使用しないアプローチを実行している。排泄誘導の声かけや羞恥心に配慮しながら可能な限り、トイレ排泄が行なえるよう、支援している。	医師の水分摂取量の制限がない限りは夜間も、水分摂取を支援している。入居者毎の排泄パターンを理解したトイレでの排泄を支援をし、夜間のポータブルトイレの使用はない。101歳の入居者も尿意があり、トイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や運動量の把握、消化の良い食物や食物繊維を多く含んだものの提供を心掛け、便秘の予防に取り組んでいる。排便困難者に対しては主治医と相談しながら自然排便が出来るよう対応に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	生活リズムの維持の為、健康状態に応じて曜日は職員が決めて入浴しているが、利用者個人のペースで入浴を行っている。	週3回を目処に、午前中に職員の一人が入居者を一人ずつ、長湯の希望や皮膚疾患のある人など個々に応じた支援している。シャワー浴の入居者も足を浴槽につけ、かかり湯で温めると気持ちいいと喜ばれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、日常生活にメリハリを持って戴きながら、個々に合わせて休息する時間を設けている。夜間に関しては安眠が出来るよう、心地よい照度や音への配慮も行い、リラックスできる環境形成に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や薬を服用するに至った経緯、副作用等を職員一人一人が把握できるよう、説明書をファイリングし周知するようにしている。変更があった際にはその都度、申し送りを徹底し、服薬後の体調管理や誤薬等のアクシデントが発生しない様に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に無理なく行える役割があり、職員と一緒に楽しみや気分転換が共有できるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩、園芸の手入れ、ドライブ等可能な限り外出支援の機会確保に努めている。事業所内の活動の中でもあじさい見学や道の駅、桜花見等にて楽しみが継続できるよう、支援している。	毎日ホーム周辺の散歩を継続している。調査日も防寒衣を着こみ、いそいそと出かける姿があった。天気のいい日は屋外で茶話会をしたり、ミニドライブに出かけて、車窓の季節の風景を眺めて気分転換を楽しんでいる。春には敷地内の桜も咲いて、花見が待たれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人が金銭を所持している人はいないが、物品の購入や支払いがある際は、可能な限り本人の手から支払いが出来るよう、支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状、暑中見舞い等、やり取りが行えるよう、関係の継続に努めている。(職員の代筆含む)		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節感を感じていただけける装飾や温もりのある光が差し込む空間である。安心感を感じやすくする工夫をし、居心地に配慮している。	居間の広い窓越しの家族との面会時に、壁一面に全員で作った月毎の貼り絵や、行事毎の写真を見やすく模造紙にまとめてお披露目している。換気や空調を管理し、体操やボール遊びの場となる居間には食事用の椅子やソファ、マッサージチェアが設置され、それぞれ好みの寛ぎの場所で、穏やかに過ごされる入居者が多い。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りに慣れる場所は自室のみだが、思い思いに過ごせる様、配慮を行なっている。仲の良い利用者同士の談話やゆとりを持って過ごせる時間を大切に、時に職員が間を取り持つなど工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の協力を得ながら馴染みのある家具や調度品を持ち込んで戴けるようにしている。本人の要望を聴きながら家族との写真や日用品等を居室に配置することで心地良いと感じて戴けるよう、支援している。	居室のドアにはお正月らしい扇が飾られ、家族写真や花飾りなど飾られた居室もある。居室の名札があるのは1室だけであるが、筆箱や整理ボックスは整理整頓され、居心地よい居室が、部屋間違いをさせない要因となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の方々の能力やストレングスを理解し、安全で不安のない自立した生活が送れるよう、個々に合せた工夫に努めている。		